



ほたる

◆建設的な生き方へのお手伝い (Just do it!) ◆
 ~あなたの悩み事は当社までご相談下さい~
 【今月の一冊】 LIFE SHIFT(ライフ・シフト)
 池村 千秋 翻訳 東洋経済新報社
 ホームページ URL <http://primecorporation.jp/>

発行日 2019年6月1日 Vol. 200
 発行元 有限会社プライム・コーポレーション
 ライフコンサルタント 渡邊 敏 徳
 〒401-0015 山梨県大月市大月町花咲 147 番地
 TEL 0554-22-2810 FAX 0554-22-2859

就職人気

令和という新しい時代がスタートしましたが、今の時代の就職傾向も大きく様変わりしています。特に東大・京大の現役就活生による就職人気ランキングのトップ10をみると、コンサルティング会社に人気があるようです。ランキングの上位6社までをコンサルティングファームが独占。トップ10企業のうち8社を占めています。しかし、日系大手メーカー・インフラ企業のランキングは各社ともこの2年で順位が大きく下がっています。

こうした企業の「下積み」を前提としたキャリアの在り方、つまり、総合職として学生を採用し、営業部署に一括配属し、2~3年スパンのローテーションを繰り返すキャリア形成の仕方がもはや上位校の学生の志向にマッチしていないことがわかります。

就職活動サイト「ワンキャリア」が140名の就活生にアンケートを実施した結果、過半数が転職やセカンドキャリアを前提とした就職活動を行っており、70%が入社先を選ぶ理由に「得ることのできるスキル・経験」を挙げています。今後もこの傾向は強くなることが予想されます。

実際に就活生は、「経営人材になるために、短期間でスキルを身につけたい。新卒では転職前提でコンサルに就職したい。下積みを待ってられないので、日系大手は志望先として考えたこともない(東京大学3年/男性)」「正直、日系大手で身につくのは特定の業界や企業にしか通用しない知識やスキルではないか。入社後にビジネスパーソンとして成長できるかどうか不安を感じる(慶應義塾大学4年/男性)」と語っています。

昨今の若者が“役職に就きたくない”“自分の時間を優先したい”などの傾向があるようですが、3年先のキャリアと成長を示していけない企業は、これから学生に見向きもされない時代が来るように感じます。社員の成長を後押しすることややりがいや夢を持たせることができる仕組みづくりが重要になってきます。



今月で「ほたる」が200号となりました。長い間お読みいただきありがとうございます。これからもできる限り私の感じたことや皆様にとってお役に立てる内容を書いていけたらと思っています。

エビングハウスの忘却曲線

最近特に感じるのですが、いろんなことが思い出せず記憶が曖昧になることです。記憶が時間経過とともにどう忘却されていくを示すグラフ「エビングハウスの忘却曲線」を知っている人は多いのではないかと思います。

それによると、人は20分後には42%を忘却し1時間後に56%と、もう半分以上も忘れてしまうそうです。1日後には忘却率は74%に達し、4分の1しか覚えていないこととなります。そして、1ヶ月後には79%を忘れてしまいます。人間の脳は、それほど忘れやすくできています。

記憶力には個人差や年齢差があることも考慮すべきでしょう。また、ある学者は、「忘れることも一つの能力」と言っています。どうでもいいことは忘れるから、記憶すべきことを選択的に覚えられます。激しい感情も喉もとすぎれば熱さ忘れる」ことができるから、心の健康が保てます。私たちは忘れることを決して悲しんだり、能力不足だと考えたりしない方がいいのです。

とはいえ、仕事や勉強となるとそう言うわけにはいきません。特に新入社員の皆さんは今の時期に覚えなければいけないことがたくさんあると思います。1日、1週間、1ヶ月単位で復習して記憶をしっかりと刻み込むことが重要になります。忘却と戦いながら早く即戦力になって欲しいものです。



【座右の銘にしたい名言】



決断しないことは、ときとして間違った行動よりたちが悪い。

(ヘンリーフォード/米国のフォード・モーター創業者)